

2020年度後期授業アンケートのサマリー

1 はじめに

平素は本学FD活動にご支援・ご協力下さり有難うございます。標記の授業アンケート結果を、学生の成長度・満足度を上下させる要因を考察する形で纏めましたので、ご参照頂ければ幸いです。今期は序盤はおおよそ7割、中盤からは5割の授業がオンラインにて実施されました。アンケート評価の平均値・標準偏差に加え、学生の成長度及び総合満足度と各評価値との相関関係、さらに自習時間が長い回答者の中で総合満足度が高い・低い回答における受講の様子を深堀して分析しております。

2 アンケートの回収状況について

今回は履修登録者延べ数(履修訂正・削除者も含む)70,571件に対し回答数が43,534件となり、アンケート実施率は99.1%、アンケート回収率は61.7%でした。期末のご多用な中、アンケートの回収にご協力下さり誠に有難うございます。授業アンケートはFD活動その他に関わる貴重な情報であり、引き続き回収率の維持・向上にご協力頂きたく、お願い申し上げます。

3 各設問の平均値・標準偏差

基本統計量における平均値と標準偏差を下表に記します。設問11の自習時間以外の各設問の平均値は4付近で、その±1に回答が集中しており、これらは毎学期ほぼ同じ傾向です。

表 各設問の平均値と標準偏差(独立した選択肢を持つ設問は除外)

No	質問文:教員の授業の進め方・熱意に関するもの	平均値	標準偏差
1	教員は、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行したと思いますか？	4.03	1.05
2	教え方について工夫がよくなされていたと思いますか？	4.04	1.03
3	板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？	4.18	0.97
4	話し方は聞き取りやすかったですか？ (話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)	4.07	1.05
5	学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？	4.01	1.04
6	受講マナーが守られるように配慮され 良い雰囲気のもと授業が行われていたと思いますか？	4.15	0.96
7	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思いますか？	4.09	1.00
8	考え方や社会的視野が広がり、学習力や探求力の向上に 得るところがあったと思いますか？	4.14	0.96
9	今後の学習や研究、また、将来の仕事の選択などに 役に立つ内容であったと思いますか？	4.17	0.96
質問文:学生の意欲や達成感(振返り)に関するもの		平均値	標準偏差
11	この授業に関して授業時間以外に 事前・事後学習をどの程度学習しましたか？ (一週間平均。宿題や課題の実施時間も含む。)	1.42	1.09
12	この授業の内容は十分理解できたと思いますか？	3.91	0.94
13	シラバスに記載されている教育目標が達成できたと思いますか？	3.92	0.93
16	この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思いますか？	4.10	1.02
質問文:総合評価		平均値	標準偏差
17	この授業によって成長できたと思いますか？	4.09	0.97
18	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思いますか？	4.13	1.01

注1:平均値は回答の1~5を逆にして算出(選択肢は1:最高~5:最低) 注2:設問11は選択肢に該当する時間数を集計

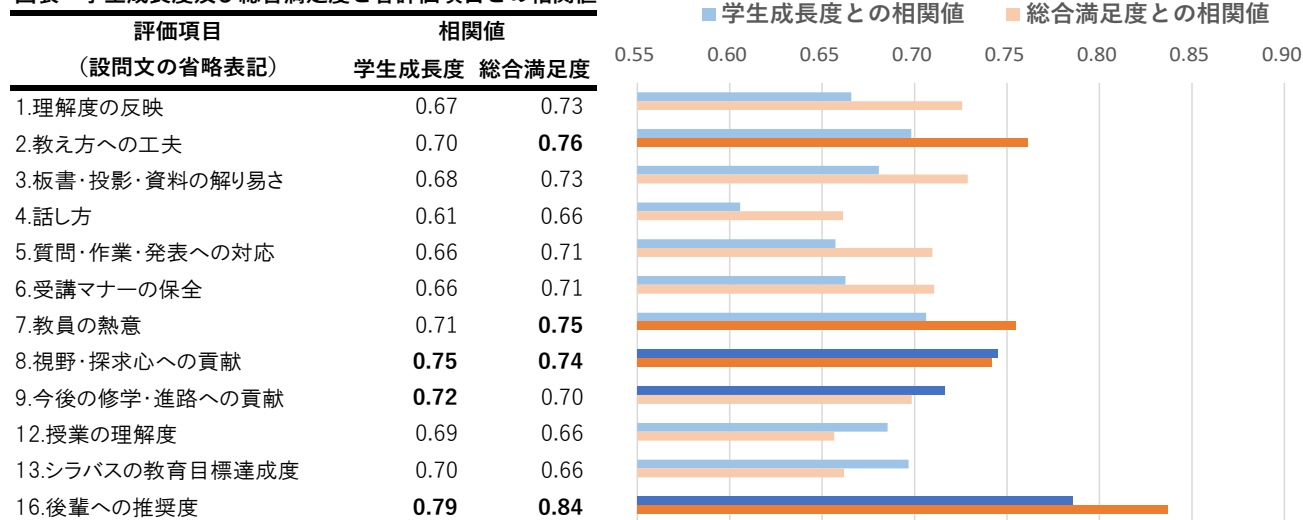
前述の平均値・標準偏差から、特に下記の傾向がみられます。

- 1) 2019年度後期 (COVID-19感染症流行前)と比較し、自習時間(設問11)の平均値が1.02から1.42へ向上した(1科目あたり平均で24分増加)。
- 2) 2019年度後期と比較し、理解度を測る設問12は3.81から3.91へ、成長の自己評価を測る設問17は4.02から4.09へ微増しており、オンライン授業で懸念された「理解度・成長度の低下」は当アンケートの範囲では見受けられなかった。
- 3) 総合満足度の平均値も昨年同時期と比較し4.10から4.13へと微増しており、各評価値の割合はそれぞれ最高評価(選択肢1)が2.2ポイント、最低評価(選択肢5)が0.2ポイント向上していた。
オンライン授業の導入で、中央値付近の回答が少しずつ両端に寄った状況が見受けられる。
今後も対面とオンラインを併用した授業運営が想定されますが、ぜひ最高評価に寄せられるよう、昨年度グッド・レクチャー賞を受賞したオンラインの公開授業等を参考にして頂きつつ、継続したアップデートをお願い申し上げます。

4 学生成長度・総合満足度に関連する項目の考察

次に授業アンケートにおける主要な評価指標である「学生成長度(設問17)」と「総合満足度(設問18)」を左右すると思われる事項を、その他の評価項目との相関分析によって推定したいと思います。各項目との相関値を算出し、下記の通り表とグラフにしました。

図表 学生成長度及び総合満足度と各評価項目との相関値



(ご参考)過去の分析から「全て同じ選択肢を選択している回答(独立した選択肢を持つ設問を除く)」を除外した際の相関値は0.08~0.12下がりますが、項目内の順位は変わりませんでした。

上記の図表を基に、学生成長度と総合満足度に対し特に関連しそうな事項を以下に記します。なお「後輩への推奨度(設問16)」は上記2項目の学生成長度・総合満足度と同様に、授業の最終評価に類する評価のため、下記の考察からは除外します。

1) 学生成長度に関連しそうな事項

「視野・探求心への貢献(設問8)」と「今後の修学・進路への貢献(設問9)」との相関が特に高い。
⇒当該科目の社会での位置づけ、進学・就職及び後続の科目に対する役割を織り交ぜながら講義することが、特に成長意欲の向上につながると推測される。

2) 総合満足度に関連しそうな事項

「教え方への工夫(設問2)」、「教員の熱意(設問7)」、「視野・探求心への貢献(設問8)」との相関が特に高い。

⇒工夫の有無は敏感に察する様子。上記と同様に当該科目の社会での位置づけを解きつつ、教育内容に沿って具体的な創意工夫をすることが、総合満足度向上につながると推測される。

また上記の図表及びその考察によると、「視野・探求心への貢献(設問8)」及び「今後の修学・進路への貢献(設問9)」は、学生の成長・満足度の双方に対して比較的強い相関が認められます。このことから、短期~長期的な学問の位置づけや可能性を折に触れて示すタイミング・題材・提示方法等を研究する価値はありそうです。

5 自習時間が長く総合満足度が高い・低い回答の様子

上記3章で除外した独立した選択肢を持つ設問として、「受講した動機(設問10)」、「成長を感じる事項(設問14)」、「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」があります。本章ではこれらの設問について、特に時間をかけて修学している(「自習時間(設問11)」が4時間以上)中で、「総合満足度(設問18)」が最高/最低の回答を抜き出して傾向を考察しました。これにより、「負荷をかけても満足度の高い学びにつなげるポイント」及び、「熱意を込めても満足度が下がってしまう要因」を探りたいと思います。

表 独立した選択肢を持つ設問における集計結果

No	設問文 (省略表記)	選択肢 (一部省略表記)	該当条件内での割合		
			全体	4時間以上自習	
				満足度最高	満足度最低
10 受講した動機		1 単位をとるため	69.4%	54.7%	84.6%
		2 友達の受講または勧め	2.4%	2.2%	0.7%
		3 先生が面白そう	3.5%	4.3%	0.7%
		4 自分の専門・人生に役に立ちそう	18.1%	32.0%	9.6%
		5 内容が面白そう	6.6%	6.7%	4.4%
14 成長を感じる事項		1 社会に必要な教養・基礎力・専門知識	58.7%	69.7%	21.3%
		2 自ら継続的に学ぶ能力	10.1%	8.0%	3.7%
		3 プレゼンテーション能力	8.5%	10.9%	3.7%
		4 技術者としての倫理観	15.2%	10.8%	18.4%
		5 成長した能力はない	7.5%	0.5%	52.9%
15 理解を深める仕組みや工夫		1 グループワーク・発表	13.6%	38.8%	7.4%
		2 振り返り教材のアップロード	20.1%	17.8%	2.9%
		3 アンケート・小テストでの理解度把握	34.3%	13.9%	7.4%
		4 その他の仕組みや工夫	19.9%	25.8%	8.1%
		5 仕組みや工夫はない	12.2%	3.7%	74.3%
各列に該当する回答の件数：			43,534	1,695	136

まず「受講した動機(設問10)」についてですが、全体の約7割が「単位をとるため」という受動的な選択している中で、長時間自習を行いつつ総合満足度が最高の回答の中には、「自分の専門・人生に役に立ちそう」という講義内容に対する将来的な期待を主な動機として選択している回答が32.0%ありました。さらに「成長を感じる事項(設問14)」に7割弱が「社会に必要な共用・基礎力・専門知識」と回答しております。これらは4章の考察で挙げた「視野・探求心への貢献(設問8)」と「今後の修学・進路への貢献(設問9)」の手前にある動機といえます。対象の学問の社会的意義・役割をシラバス等の受講前の資料に対して具体的に記述することで、修学モチベーションが高まり、自己成長を感じることができ、総合満足度が高まるというポジティブな波及効果が期待できそうです。

次に「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」ですが、長時間自習×高満足度の層は「アンケート・小テストでの理解度把握」が少なく(平均34.3%に対し13.9%)、その一方で「グループワーク・発表(38.8%)」「その他の仕組みや工夫(25.8%)」の回答が多かったです。120分授業になったことでアウトプット型・能動的な授業が行いやすくなり、特にこの層の授業ではこれをうまく取り込んでさらなる充実を図られてる様子が見て取れます。

最後にネガティブな回答にも目を向けたいと思います。4時間以上の自習を行ったものの総合満足度が最低だった回答が、136件と少数ですが存在しました。この層は他と比較し非常に多くの自由回答が記述されており(136件中62件)、その多くは「講義の難易度・量に対するオンラインでの授業提供方式のミスマッチ」でした。去年度グッド・レクチャー賞を受賞されたオンラインの公開授業は場所・時間を選ばずご見学可能ですので、まずはこちらをぜひご活用頂き、授業提供方式の選択肢やその活用方法の優れた実例を情報収集して頂ければと思います。

6 おわりに

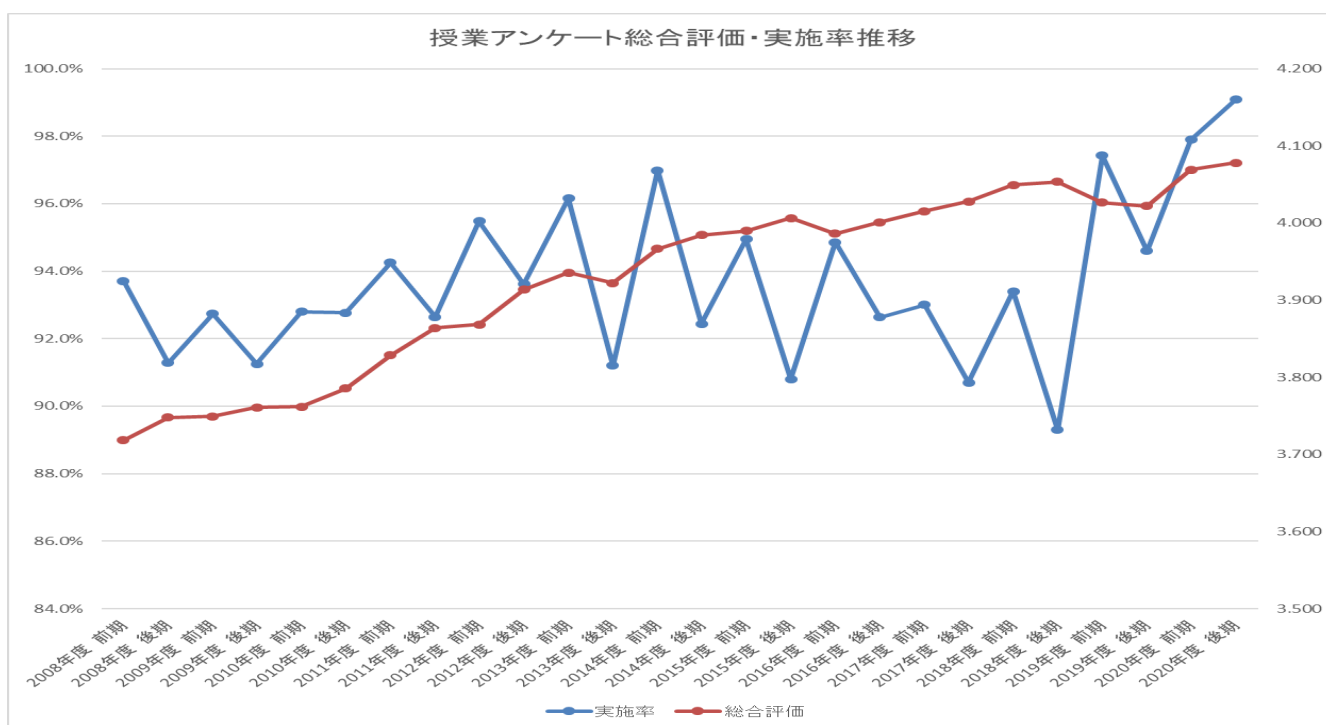
2020年度後期は序盤はおおよそ7割、中盤からは5割の授業がオンライン提供となり、学生・教員共に徐々にこの環境に慣れてきたものの、まだ試行錯誤とブラッシュアップを実施されている状況と思われます。この状況下で学生成長度・総合満足度の平均値が微増したことは大変喜ばしい結果であり、先生方のご尽力に改めて御礼申し上げます。

一方で5章の後半に記したネガティブなフィードバックも少数ですが存在し、個別の対策が必要なケースも僅かながら散見されます。さらに今後はリアル・バーチャル双方のメリットが享受できるような開講方式がスタンダードになる可能性もあり、環境変化へ適応するための取り組みは、むしろこれからが本番といえます。

FD委員会ではこのような環境下においても、本学が掲げる師弟同行・師弟共生の教育目標に沿った質の高い教育が実践できるよう、多角的な視点と多様な情報源から現状を捉え、改善施策を検討して参る所存です。先生方におかれましても、まずアンケート回収率のさらなる向上にご協力頂き、そのうえで授業改善に向けた積極的・継続的な試行錯誤とブラッシュアップをお願い申し上げます。

引き続き、授業アンケートをはじめとするFD活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

7 参考資料



■授業アンケート評価点推移 (2008年前期～2020年後期)

	実施率	総合評価		実施率	総合評価
2008年度 前期	93.7%	3.718	2015年度 前期	94.9%	3.990
2008年度 後期	91.3%	3.748	2015年度 後期	90.8%	4.006
2009年度 前期	92.7%	3.749	2016年度 前期	94.9%	3.986
2009年度 後期	91.3%	3.761	2016年度 後期	92.6%	4.001
2010年度 前期	92.8%	3.762	2017年度 前期	93.0%	4.015
2010年度 後期	92.8%	3.786	2017年度 後期	90.7%	4.028
2011年度 前期	94.3%	3.829	2018年度 前期	93.4%	4.049
2011年度 後期	92.6%	3.864	2018年度 後期	89.3%	4.053
2012年度 前期	95.5%	3.868	2019年度 前期	97.4%	4.027
2012年度 後期	93.6%	3.914	2019年度 後期	94.6%	4.022
2013年度 前期	96.2%	3.936	2020年度 前期	97.9%	4.069
2013年度 後期	91.2%	3.922	2020年度 後期	99.1%	4.078
2014年度 前期	97.0%	3.966			
2014年度 後期	92.4%	3.984			

以上